

授業改善書

科目名	文化人類学
担当者	谷口陽子

授業の概要

本授業では、様々な時代や地域に生きる人々の家族のあり様や人生の節目節目に行う儀礼の意味と役割について学ぶことを目標とし、受講生が自分自身の問題として捉えられるよう、日本の身近な話題と関連づけた授業を心がけました。学生の集中を高めるとともに授業の進行を分かりやすくするため、授業の流れを記したプリントの配布、および板書による図解を行うこと、さらには受講生の自主的な学習態度を引き出すため、毎授業の最後に受講生の感想や意見の記入を求め、グループディスカッションと発表の機会を設けてきました。

授業の問題点

- ・ 学生の授業外学習(予習や復習)を促す工夫。
- ・ グループディスカッションの時間を長く取る工夫。
- ・ 授業進行中に、学生からの質問や発言を引き出し、クラス全体で共有する工夫。
なお、授業進行中に私が教室全体に投げかけた質問に対しては、2, 3名の特定の受講生が自主的に回答し、教室全体の雰囲気をつくり、引っ張っていく状況でした。
- ・ 読み取りやノートをとりやすい板書の工夫。

授業改善の課題・方策

- ・ 重要な概念や視点については、数回にわたる小テストを予告したうえで実施したので、テストのための復習を行った受講生は高得点であったし、うまく回答できなかった受講生でも、テスト後に自宅復習を行い自主的に翌週に提出した者もあり、取り組み方に個人差があったように感じます。なお、本授業は、世界の家族や儀礼、信仰についての理解を深めるとともに、自分自身の属する社会や文化の中の家族や儀礼、信仰のあり方を見つめなおすという手法を進めてきました。今回は定期試験ではなくレポートの提出をもって成績評価を行ったが(情報の羅列や盗作にならないよう条件を厳しく設定したうえでのレポート課題の設定をしました)、多くの受講生が授業で扱った概念や視点、具体事例などを踏まえたレポートの作成に努力をした痕跡が認められました。このことから、本授業に関しましては、レポート課題は授業外学習を促す良い方法のひとつではないかと考えるに至っています。
- ・ グループディスカッションで準備したトピックに対し、多くの受講生が大変楽しんでいたことが印象的でした。したがって、受講生間でさらに話し合う時間を設けたほうが良かったかと現時点では考えています。
- ・ 授業進行中の質問や発言を引き出すための工夫としては、授業のトピックが変わるごとに前述のグループディスカッションの機会を設ける方法をとっても良かったかと現時点では考えています。
- ・ ノートを取って復習に備えるべき箇所について、口頭で繰り返し指示しながら板書を行うことで、受講生がノートを取りやすい雰囲気を作れたかもしれないと現時点では考えています。

その他